

専門委員・専門参考人からのコメント

膵リパーゼに関する知見について

山崎専門委員

ヒト膵リパーゼは試薬として市販されているので、グリシドールエステルを含む TG・胆汁酸ミセルを形成させてグリシドールエステルの加水分解の程度を調べる *in vitro* の実験系が構築できると思いますと、先の WG 会合時に発言しています。この実験を実施してもらうことを提案します。

なお、TG・胆汁酸ミセルを形成させて TG の加水分解の程度を調べる *in vitro* の実験系は、過去に許可された脂肪の吸収を抑えることを謳っている特保の作用メカニズムの根拠試験に使われた例があります。

また、リパーゼとしては、ヒト膵リパーゼ（例：Sigma 社が試薬として市販）と、医薬品としてのブタ膵臓酵素混合物（例：局方パンクレアチン、USP Pancrelipase）を使って実施していただくとよいと思います。

食品安全委員会事務局で収集した知見等について

吉田専門委員

古い文献もあるようですが、御専門の先生方からの異議がなければ評価対象になるのではと思います。

発がんという点で ref. 31-33 も評価に使用できると思います。

また申請者が実施したサルの試験ですが、投与方法など詳細な報告書となっており、評価できる試験であると思います。

お墨付きが必要な場合は、信頼できる専門家の reviewing してもらい、評価に用いるべきと考えます。

種差の存在については前回の討議には入りませんでした。もし種差があるならば、このサルはリスク評価にとって重要なデータです。

小職が所属する農薬専門調査会で評価した農薬のうち、多くのもので種差の存在がメカニズム試験から証明されています。